

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200115		
法人名	有限会社 SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	滋賀県彦根市鳥居本町1455-7		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成29年3月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この一年で利用者様の入退所が数名、管理者・職員の交代といった事で、雰囲気・空気が変わってしまう事を重視し在在所者様への配慮、新しく入居された方への配慮を心掛け、今まで以上に職員会議を徹底し、申し送りや留意点などを蜜に連絡し合うよう各職員に意識を高めてもらうなど、基本的な事から見直している。また、ご家族様への連絡をまめに取り、気楽に来訪しやすいような関係性を継続出来るように努めている。この一年では他施設様との交流をもつ機会を増やし、招待したりされたりと様々な行事やイベントを行わせて頂き、写真をまとめ、記録に残し掲示するなど、今一緒に過ごしている皆様で同じ楽しみや思い出を共有しています。また、食事に関しても、開設当初から変わらず手作りを続けており、各々に合った量・形状で提供しているため、看護師の指導の元、体重体調管理を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中山道、鳥居本宿沿いの一角に開設から6年を経過した当事業所がある。「尊厳を保ち、その人らしさを大切に支援し、日々安心して、生きる希望と…、ご家族や地域との連携を図る。」を理念に掲げている。その実践に向け、家庭的雰囲気の中で、かけがえのない人として尊重しながら自立への手伝いと少しでも家族の負担を軽くするため、家族との関係を築く事に取り組んでいる。夏祭りや諸行事を開催し家族との交流を一層深めている。運営推進会議は駐在所の警察官も出席して、意見や防犯啓発を行う一方、事業所との連携にも役立っている。職員は利用者と共に寄り添いの中で自然な形でスキンシップを図り、肩や背中に手を添えたり、手を触れ合っている。そんな環境の中で、利用者は居間に集い、リハビリ体操やしりとりゲームを楽し気に興じ、安心して元気に日々を過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念であるが、グループホームのアピールポイントである【家庭的な雰囲気】作りを職員全員で心掛け、笑顔(表情)を忘れず接している。あえて制服を作らず職員同士も和気藹々とした関係性である。	理念を「地域において家庭の雰囲気、心安らぐ生活が送れる様、尊敬をもってケアに努める」と展開し、職員は日々のケアをミーティング等で振り返りながら実践に当たっている。家族に契約時、詳細に理念を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内で行われる文化祭・夏祭り・小中学校の行事に招待や案内して頂き全てに参加させて頂く。その為に普段から民生委員さん・地域包括の方への関係性を保つよう努めている。	自治会への加入は未だ受け入れられていないが、近隣とは積極的にあいさつを交わしている養護学校と交流を図り、更に小学校にも交流の輪を拡げつつある。地域の広報誌【生き生き鳥居本】に事業所の紹介掲載の見通しがついた。	事業所が地域の一人として事業所の力を活かした地域貢献を模索し発信や実行で交流が密になる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前管理者・現管理者と、民生委員会に自発的に参加し、施設の存在を周知して頂く事、理解と協力を改めてお願いにあがる機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議であり、2ヶ月間での利用者様の状況変化や行事や今後の取り組み予定など細かく報告している。各機関の方々が参加して頂いている事からあらゆるアングルからの意見が聞け、且つ相談もスムーズに出来ている。	会議は、駐在所の警察官等の参加で2ヶ月毎に開催している。事業所の取り組みや出来事の報告や地域と交流の進め方、防犯等の課題について協議している。会議内容は管理者からの報告で職員は共有している。議事録は家族に配布していない。	運営推進会議の内容は家族にとって大きな関心事であることから、家族に議事録の配布をする事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなどがあるとすぐに連絡させてもらい、顔合わせの意も含み介護福祉課に伺い、直接話す機会を作っている。	地域包括支援センターや介護福祉課には、徘徊時の緊急通報の登録、看取り体制と加算、ケアの困難事例等の実情を報告や相談をして情報を共有し指導や助言を得ている。介護相談員は未だ受け入れていない。	利用者の思いなどをケアに反映する為にも介護相談員の受け入れを行政と相談し実現する事を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束も過剰施錠もしていない。介助の仕方だけでなく、センサーや防犯グッズを検討する際にも市に問い合わせするなど、職員会議でも常に話し合っている。	虐待防止マニュアル・身体拘束ゼロの手引を活用して、内部研修を行ない共有を図っている。職員のスピーチロックも都度、ミーティングで話し合い意識し合っている。利用者の外出行動の予兆を把握し見守りと行動を一緒にしている。更に気分転換を図る工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム部会などの研修には毎回参加するようにし、極力毎回違う職員が参加するようにしている。虐待に近い介助があっても見過ごすことなく都度厳しく注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用される方が居られた際に、会社役員・管理者・職員と全員に説明し留意する点など話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に出来ている。自身が家族の立場だったらと気持ちを踏まえ、相手の立場になって説明する事を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設けなくても、日々そうしている。	家族の来訪時には意見要望を聞くチャンスと捉え、必ず職員が対応に当たり傾聴に努めている。遠方の家族にはSNSのラインやメールを活用し、日常の様子や誕生会の写真を送ったりして意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々設けているが、職員会議でも口頭では言いづらい事もあるだろうと踏まえ、文章にて意見交換可能な様にも配慮している。	管理者は職員と同じシフト時、日常的に意見や提案を言い易い雰囲気作りをして聞き取り、話し合っている。2ヶ月毎のサマリー検討会議時、管理者宛の意見メモを職員に提出を求めそれを下に、個人面談を行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	都度、細かく労基を確認をとり、職員さんの要望、希望を管理者からまめに報告連絡し、代表者より職員に応じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様、管理者から報告・連絡を受け、研修の機会を共に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流会を数回開催し、イベントなどは両施設の職員と協力して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネからアセスメントシートを取り寄せる際、念入りに情報を聞き、本人さんと家族様と面談を行い要望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際は本人様よりも家族様からの申し込みである為、困っている事は明確の上で、不安を軽減させてあげられる説明や実績をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当日見学の方でも、ご要望に応じて、当日入所など応じている。また、3日間の体験入所を設けさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の人生経験において培っておられる知識・知恵・動作などを生かしていただき、利用者様と職員は互いに補い合う生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からも、マメに報告し、電話連絡では時間等の考慮もあるので、後回しにならないようメールなどでも連絡をとり、離れていても家族は関わっている事を認識していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡が可能な方は来訪して頂いたり、また、ご本人の馴染みの場所(喫茶店)に他利用者様と一緒にお茶をしに行く機会を作っている。	利用者の家族、知人の来訪時は快く迎え、居室でゆっくりと話が出来よう配慮している。受診の送迎時にも馴染みの地域・場所へ迂回し、記憶や関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースであるリビングでの席の配置は何度も試行錯誤し配慮している。日々うまく行く訳ではないがその日によって関わり方・席の配置は替えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養病棟に移動され退所された方でも病院に伺い状況を聞かせて頂いたりしている。また別の方でも相談に応じたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位は基本である。入所時のカンファで意向・思いを聞き、その後も職員(検討)会議などでも職員全員で把握している。	入浴時、夜勤時の会話から、利用者の本音を把握し、意向に沿えるように経過表や申し送りノートに記録し、実践に活かしている。日頃の利用者の仕草、表情、言葉掛けに対する返答等も意向の把握に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をいただき、生活・馴染み・環境・生い立ちなど、ひもときをしアセスメントにまとめ職員に発信している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日2回の申し送りにて情報の共有をし把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の交代により一時混乱したが、利用者個々の現状に即した介護計画を作成している。利用者に心身の変化が認められた時は即、計画を見直している。	家族や利用者の意向等の情報を加味し介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実施し、状態に変化が無くても3ヶ月毎に計画の見直しを行い、家族に説明し承諾を得ている。一部、家族の事情で承認が遅れるケースがある。	利用者側の事情とは言え、計画書に家族の承認は必須項目である。電子メールで遣り取り等、方法を模索し内容の説明と承認を得る事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録・業務日誌・職員間の申し送りノートなどで、記述している。管理者・職員で判断し、実践できる事は取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来は医療行為がある方はグループホームでの入所資格はなかったが、施設内での点滴・酸素・喀痰吸引など受け入れる姿勢である。また、施設外でのご本人の行事にも家族様から依頼があれば同行介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんをお呼びし、馴染みのある余興などイベントを開催し、楽しんでおられる。また、市内の認知症カフェの利用もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はもちろん、緊急や体調の変化があればすぐに連絡し対応を図る。	家族の希望に応じ全員が従来のかかりつけ医を協力医に切り替えた。受診は全て職員が同行し、家族に報告し共有している。受診にあたり看護職員が日頃から纏めている、バイタル記録を提示し連携を保っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師は基本24時間体制である。小さな様態の変化でも連絡を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市立HPまたは中央HPの地域医療連携室の担当の方とマメに状況を確認し、打ち合わせしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	この1年では重度化された方は入院か家族様の意向で特老に入所させているのでまだ話し合いの実績はないが、十分な説明はお伝えし支援する方針である。	重度化や終末期の対応指針書を作成し、利用契約時に説明し同意を得ている。終末期の段階で「終末期対応の合意と意思表示」、「看取り介護に関する同意書」を家族と交わしケアに当たっている。係る内外の研修は受講しているが看取りケアの経験は未だない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症予防のグッズを常備し、看護師より指導を受ける。また、AEDの使用方法についても消防署員より指導済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、夜間想定の実際の訓練は難しく、職員の話合いにてシミュレーションはしている。	避難、誘導訓練、消火訓練は消防署の指導の下で年2回、夜間想定も含み実施している。訓練に民生委員の参加は得ているが、近隣住民の参加や協力体制はまだ整っていない。非常品の備蓄は出来ている。	地域の理解と協力体制が不可欠であり、訓練を近隣住民の参加を得て実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徐々に馴れが生じてくると当初の基本の言葉遣いを忘れてしまいがちにはなっている。その為月の職員会議で再度確認合っている。	接遇マナーについての研修への参加や、会議で全職員が周知するよう話し合っている。利用者に尊敬の態度を持って、プライドを傷つけない様ゆっくり、おだやかな声掛けや誘導を常に意識し努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の意思尊重をし説明と同意は得る姿勢を示している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、おおまかな施設側のペースに合わせてもらっている事もあるが強要はせず本人希望の過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の助言はするが、服装の選択は自由であり、整髪・スキンケアなども一緒に買物へ出かけ購入したりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの仕分け、食器拭きをお願いし一緒にしている。決まったコストの中で盛付や色合いを工夫し目で楽しめるようにも考慮して食事を楽しんでもらえる事を励みとしている。	一番楽しみにしている食事は利用者が出れる範囲で食事作りに参加し、三食、おやつ共、手作りである。担当職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、時に個別に嗜好に合わせて見た目や味、季節を楽しめる献立を調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜1副菜2品を守り、全体的にも過度な摂取にならないよう考慮。各々の量で提供している。また、水分摂取も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・誘導はするが、中々同意が得られなく毎食後は出来ていない。就寝介助時には徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブル使用の方でも、まずはトイレへ誘導する。毎日、排泄表を確認し、その方のパターン・ペースを把握している。	排泄記録から各人のパターンを把握し、タイミングを見計らいトイレでの排泄に向け声掛けや誘導に努めている。便座の高さを変える等、使いやすいトイレの工夫も行なっている。夜間は睡眠を妨げない範囲での支援に留めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	せんな茶など状態に応じて提供。排便のスパンが長ければ看護師に相談。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活のため、時間・清潔・失禁などから、毎回利用者様のタイミングに合わず事は出来ない事もある。強要はしていない。	入浴は隔日に、14時～17時頃までの間で希望に合わせて行っている。風呂は毎日用意し、毎日入浴する利用者もいる。入浴剤を利用し色や香りを楽しみながらゆっくり入って貰える様配慮している。同性介助に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のタイミングは自由にして頂いている。日中の休息も自由なタイミングで居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の下、指導を受け、職員には服用時に徹底して確認と飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの強要はせず、各々の興味のあること、得意なことを提供している。近所の散歩など、極力声かけを促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・体調、職員の人員数によってはその日の希望通りには行かないが、外出の機会は多く作っている。	利用者は日常的に近くを散歩したり、身の回り品の買い物や食材の買い出しに職員と同行している。花見、紅葉狩り、初詣等、年数回の外出は可能な限り、全員揃って実施している。外食は全員揃って出来る楽しい外出となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではトラブルを防ぐ為、居室での管理を控えて頂いている。中には、本人様に同意を得た上で管理者が帳簿をつけて共に確認し、責任を持って預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	場合によっては、家族様から、あまり何度も電話をしてほくないとの声もあった為、電話先の家族様の事も配慮し臨機応変に支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建築段階から、採光の範囲を考慮し窓から見える景色は充分とれ、温度調節も徹底している。アットホームな雰囲気を作る為、飾りなどに昭和感をもたらしている。	リビングは明るく、季節毎の利用者の貼り絵作品や催し時の写真を飾っている。食卓の配置を定期的に模様替えし、新鮮な雰囲気を作り出している。共用空間は掃除を常に行い、清潔保持に努めている。ソファの配置も利用者の動線を考慮し安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮は常々している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、自宅で使用されていた物を持参して頂いたり、導線がとれている以外は家族様と自由にレイアウトして頂いている。	利用者は長年馴染んだ身の回り品を持ち込み、思い出の品や家族の写真を飾って、落ち着いて過ごせるよう工夫している。今までの習慣に配慮してベッドの向きを決める等、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居順で居室は選べないが、居室からのトイレへの導線・方角を分かりやすくしている。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は実施しているが、会議参加メンバーである家族様代表が退所し、この2年近く不在である。	家族様代表に参加して頂く。	家人様も仕事をされている、反面、家人様も年配で行動手段がなく…など各々の都合もあり決まった日の参加は難しい状況である。メンバーの行政に合わすと平日になってしまうが、曜日を変更し打診してみたい。	12ヶ月
2	5	利用者様・職員が外部の方に相談出来る機会がなかった。	市の相談員さんなどに来訪してもらう機会を設ける。	外部評価時に市のサービスを利用してみてはと助言いただいたので、役所へ依頼し相談員さんに来訪していただけるように手配する。	12ヶ月
3	35	地域の方の参加も出来ていない、職員のコミュニケーションも中々緊張感をもって行えていない。また、災害時のための備蓄品も用意できていなかった。	近所の方の理解と協力を得て、夜間体制の訓練をより現実的に行いたい。	民生委員さんに協力を得て、地域の方に呼びかけを行い、自治会主催の避難訓練にも積極的に参加をし当施設をより周知して頂く。内部の訓練では、指揮をとる者が意識を高め危機感のある空気を示す。備蓄品はすぐ用意する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。